

ひと

伝統素材「漆喰」の復権をめざす

ゆきひら
行平

のぶよし
信義 さん(64)



日本の城壁や蔵の壁の仕上げに使われてきた「漆喰」。千年を超す歴史のある伝統素材だが、今は内壁でのシェアは1%足らず。全国の漆喰メーカー12社などの業界団体を率い、その復権をめざす。福岡県筑豊出身。地元でたくさん採れる石灰石は漆喰の原料。白ダイヤとして黒ダイヤ(石炭)と並んで、重宝されてきた。

社長をつとめる田川産業は、1924(大正13)年創業の業界最
大手。「3代目は身上潰す」との
格言をもつとせず、大阪城や長
崎の教会群など、各地の伝統建築
物の補修工事で使われる材料を提
供してきた。2000年には世界
で初めて、漆喰でつくるタイル
「ライミックス」を開発。時代の
変化への機敏な対応も重ねる。

嫌いな言葉は「できない」。
「大抵は『やりたくない』の同義
語だから」。幕末の志士・高杉晋
作の辞世の句「おもしろきことも
なき世をおもしろく」を好む。

近年、アトピー性皮膚炎やシツ
クハウス症候群などにかかりにく
いとされる漆喰は、健康やエコに
関心がある層から支持が広がって
いる。追い風とみて、科学的な効
果を実証する研究を加速させる。
「消臭や抗菌といった機能もアピ
ールしていきたい」

先代の父は「創業100年祭は
やってくれよ」と言い残し、79歳
で世を去った。遺言を実現し、後
世に漆喰を伝えることが使命と自
任する。

文・写真 大矢雅弘